

# KANA GAWA ARTS PRESS

12 & 1 2013  
2014

神奈川芸術プレス Vol.115

CREATOR'S  
VOICE 134

CREATOR'S  
VOICE 134

CREATOR'S VOICE 134

## 茂山 千三郎

神奈川県立音楽堂ニューイヤー・コンサート  
『日本の音でお正月! 京の和み・江戸の粋』に出演

神奈川県民ホールギャラリー「日常/オフレコ」

街道でたどるエリア紹介 ～県央・相模原エリア～

ご一緒に。～「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」 「マエストロ聖響の夏休みオーケストラ!」～

表紙撮影：福里幸夫

奇数月15日発行 [隔月刊]

楽しゅうなるこそ

めでたけれ

日本の音で寿ぐ

音楽堂60歳のニューイヤー



## 広く愛され、味わい深い「お豆腐狂言」を

——ニューイヤー・コンサートと聞いて、まず思い浮かぶのはウィンナ・ワルツやポルカかもしれません。でも音楽堂『日本の音でお正月!』では、狂言や囃子、日本舞踊など日本の伝統を担う旗手たちを迎え、めでたさいっぱい、元気いっぱいのひとときをお届けしたいと思います。

この公演にご登場いただく千三郎さんをはじめ御一門のみなさんは、お父上の千作さん、叔父様の千之丞さんをはじめ、他のジャンルとの共演にも積極的で、狂言を親しみやすくする活動をなさっています。これは茂山家に代々伝わる家風でしょうか。

650年もの狂言の歴史にあって、茂山家は江戸初期から京都で狂言師をしておりました。保守的な能・狂言の世界にあって、庶民的な家風、家訓を持ち続け、それぞれの時代に適合することをやり続けてきた狂言の家だと思います。

茂山家には「お豆腐主義」という言い伝えみたいなものがあります。「お豆腐」という言葉を最初に使ったのは十世正重(二世千作)で、彼は、格式張っていた狂言を一般の人たちに親しんでもらおうと、町内の集会や婦人会などどこへでも気軽に出かけて、「出前」狂言をしたんですね。明治時代の当時、能や狂言が特別な階層の人たちのもので、能舞台以外の上演は許されないと考えられていましたから、「おかずにつまれば豆腐にせい、余興に困れば、茂山の狂言にしとけ」と揶揄されたりしました。けれども正重は、「お豆腐で結構。それ自体高価でも上等でもないが、味つけによって高級な味にもなれば、庶民の味にもなる。お豆腐のように喜んでいただける狂言を演じよう」と、悪口を

逆手にとって狂言を一般の方々に広めようとしたのです。——今でこそ盛んになったアウトリーチ活動を、明治時代にすでになさっていたのですね。茂山家で力を入れられている「学校狂言」もその流れでしょうか。

戦後、仕事がない時代に、父や叔父が学校の先生たちと相談して、「子どもたちにいま狂言を見せないと、どんどんアメリカ色になっていく」と全国をまわったのが最初です。いまは一門で、年間200公演近くあります。小中高だけでなく幼稚園にも出かけていくんですよ。最近多くなったお客様が、京都の修学旅行生です。彼らが泊まっている宿に向き、大広間での夕飯の後、その場で狂言上演会となるわけです。せっかく京都に来てくれているのだからここで狂言を見てもらわない手はないと、こちらから提案した企画です。僕自らスーツを着て旅行代理店をまわって営業したんですよ。おかげさまでたいへん好評をいただいています。

——さすが茂山家企画部長(?)の名アイデアです。千三郎さんは、若手メンバーを集めた狂言会「TOPPA!」をはじめ、一門のプロデュース活動もたくさんなさっていますね。

千五郎の襲名を全国で展開したり、2002年に「唐相撲(とうずもう)」という40人参加のツアーを全国9か所で行ったりしたのが、プロデュースとしての大きな仕事ですね。最近、茂や逸平など若手に任せて、自分の仕事をさせていただけようになっています。

## 音楽堂のニューイヤー・コンサートならではの狂言

——2012年のニューイヤー・コンサートでも、茂山家に代々伝わる由緒正しき「三番三(さんばそう)」をいろいろ

なジャンルの方とのコラボレーションでやりたいとおっしゃって、こちらの提案を柔軟に受け止めてくださった。おかげで、楽しい会ができたと思います。

狂言は通常、能管と鼓、太鼓と一緒に、三味線や箏、尺八とは共演することが少ないんですが、あのとき、尺八の藤原道山さん、マリimbaのSINSKEさんとのコラボという挑戦をさせていただいて、たいへんおもしろかった。組み合わせを考えてくださって感謝しています。

——さて2014年ニューイヤー・コンサートですが、今回のプログラムは、まず御所にちなんだ狂言「子(ね)の日」から始まります。

お正月に松を引きに行くという京都の風習にちなんだ演目です。京都に若松がたくさん植えられている小松原というところがありますが、そこにお公家さんが松を引きに行くと、被を着た姿かたちのいい女性が現われる。そこで歌を読み、返歌するというやり取りで二人の心が結ばれていき、いざご対面となって女性の顔をのぞき見ると……。狂言ですから喜劇に終わります、とだけ申し上げて、それから先は見てのお楽しみということにいたしましょう。

——楽しい想像がふくらみますね。そして笛と箏による「春の海」はさんで、「室町歌謡組曲」から「狂言小唄」を数曲、8人の狂言方と能囃子でご披露くださるのですね。

これは、京都に残る室町の小唄を叔父の千之丞が節付けて作り上げた作品です。これらの小唄は、子どものときから稽古していて、われわれの身にしみついているもので、叔父亡き後、これから僕たちがしっかり受け継いでいきたいと思っています。

狂言というと、江戸時代の芸能と思われるかもしれませんが、僕たちは、室町時代の狂言をやりたいと思って

# 狂言師 茂山千三郎

神奈川県立音楽堂ニューイヤー・コンサート  
『日本の音でお正月! 京の和み・江戸の粋』

2014年1月18日(土) 15:00開演

神奈川県立音楽堂

出演: 茂山あきら、茂山千三郎、茂山宗彦、茂山逸平(狂言) ほか  
一噌幸弘(能楽囃子・笛方) ほか  
西陽子(箏) 弧の会(日本舞踊) 若獅子会(歌舞伎囃子)

プログラム

【第1部~京都の春】

狂言「子(ね)の目」

宮城道雄作曲「春の海」(箏:西陽子/笛:一噌幸弘)

茂山千之丞監修「室町歌謡組曲」より

【第2部~江戸・東京の春】

箏独奏 八橋検校「六段の調」より

歌舞伎囃子集団と日本舞踊群舞が競演する特別ステージ

※開場時と休憩中、ホワイエにて福田神社囃子獅子舞を披露

(大和市指定重要無形民俗文化財/福田神社囃子獅子舞保存会)

インターネット予約(24時間対応)

<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

チケットかながわ ☎0570-015-415(10時~18時)

## 神奈川県立音楽堂ニューイヤー・コンサート 『日本の音でお正月! 京の和み・江戸の粋』 に出演

2014年は神奈川県立音楽堂にとって開館60周年を迎える年。

その冒頭を飾るのは、日本伝統の各ジャンルから旗手たちが競演するユニークな企画。

ときにほっこり和み、ときにパワフルに躍動する伝統音楽の魅力と楽しさを、たっぷりお届けする。

出演する大倉流狂言師の茂山千三郎に、茂山家に伝わる狂言の精神、

自らのプロデュース活動も含め、幅広く語ってもらった。

いるんですね。江戸時代に武士に抱えられた式楽ではなく、室町時代、神社やお寺で庶民の娯楽として楽しまれていた狂言を追い求めています。その点でも今回、狂言小唄をみなさんに聴いていただけるのは嬉しいことです。

—お正月らしく、客席のみなさんも一緒に体験していただく「狂言笑いコーナー」もご用意しました。

お腹の底から思いっきり笑って、福を呼び寄せましょう! そして、第2部「江戸・東京の春」へとバトンタッチします。お正月の楽しい雰囲気をどうぞお楽しみください。

### これからの夢

—昨年、演出を手がけられたオペラ『ちゃんちぎ』(團伊玖磨作曲)をはじめ、活動の幅がますます多岐にわたっているようにお見受けするのですが、これからやりたいと思われることはなんですか?

自分の会をしたいと思っています。兄たちの会があり、若手には「花形狂言会」があるのですが、その間にボソソと残されてしまった感じで。通常の狂言会とはなにか違ったことをしたいと思いながら、ずっときてしまったので、いつか千三郎らしい会を実現させたいと思います。

近い将来の予定で楽しみにしているのは、東京の和泉流狂言の野村万蔵君と15年ぶりに共演することです。父が野村萬先生と一緒にしていた曲を、僕らがやらせていただきます。狂言の世界にあつて、殻を破ろうというとき、違う流儀の人と一緒にさせていただくのが第一歩なんです。これまで歌舞伎や落語をはじめ他の流儀の方々とのコラボレーションをやらせていただいたものの、なぜか一番近くにいる異流の人と共演する機会がなかったんです。

和泉流の狂言と一緒にやることでみえてくるものがあるのではないかと、たいへん期待しています。

聞き手 伊藤由貴子(神奈川県立音楽堂・館長/プロデューサー)  
構成:荒井恵理子/撮影:福里幸夫

### わたしの神奈川 ~父と叔父の思い出が詰まった場所~

茂山家は、横浜にはたいへん縁があります。九代目の茂山千吾が、幕末の井伊直弼大老に抱えられていましたから、掃部山(かもんやま・紅葉坂)にあり、直弼の官位である掃部頭からその名をつけられた)とは深いつながりがあるのです。ちなみに井伊大老に抱えられながら、京都では違う名前でも御所に出入りしていたのですが、御所と井伊家は立場が正反対ですから、結構とんでもないことをしていたんだなと思います。こういうところも、わが家ならではの「適合性」でしょうか(笑)。

私が「狸腹鼓(たぬきのはらづつみ)」を抜いた(=はじめて上演した)のも、音楽堂の隣の横浜能楽堂です。これは、茂山家では「一子相伝」と言われる秘曲で、父から稽古してもらった最後の曲になりました。

横浜能楽堂では、1週間で30演目上演する「茂山狂言30連発」というたいへんな企画をさせていただいたこともあります(2001年3月)。関東の拠点と言えるほど、よく出演させていただいています。

打ち上げはいつも中華街です。父も叔父も中華が大好きで、公演後はかならず一門を連れて行きました。叔父の行きつけは「海員閣」で、この店の車海老のから煮が大好き物だったんです。横浜は、父や叔父と過ごした時間がたくさん詰まっている場所です。



しげやま せんざぶろう

3歳で初舞台。1980年より「花形狂言会」に加わり活動。2000年には茂山正邦、茂、宗彦、逸平、童司と共に、「TOPPA!」を主宰(05年解散)。企画製作と出演までを自分たちでおこない、ファン層を広げる。狂言師として、明快な語り口、柔軟な表現力には定評があり、ファンも多い。また個人的な着眼点で、「だんご聲」「都渡り」「薬水」などの新作狂言の脚本も手がけ好評を博す。さらに他ジャンルの新旧芸術との交流を試み、演出家としても活躍。ミュージカルオペラ「ONATSU」で演出デビューし、03年には、京都市交響楽団とのコラボ「鐘ノ音」を、04年京都音楽祭オープニングにて「金平糖」を手がける。またオペラ演出にも取り組み、12年に演出した堺シテオペラ、歌劇「ちゃんちぎ」(團伊玖磨作曲)は、2012年度三菱UFJ信託音楽奨励賞を受賞。一方、FM京都αステーションのパーソナリティー、KBS京都のキャスターやレポーター、年間20回を数える狂言の講演などを通して、「狂言」の魅力を紹介している。

### 消えた／消された記録・記憶を通して

「日常／オフレコ」は、「日常／場違い」(2009年)、「日常／ワケあり」(11年)と続いてきた「日常」シリーズの第3弾となる。「オフレコ」とは、「記録にとどめないこと」「記録、報道しないことを条件に記者に話すこと」(広辞苑)。社会や環境、生活そして人生の背後にひそむさまざまな要素を取り上げた作品によって、「世界をどう見るのか」を問いかけてきた「日常」シリーズ。はたして「日常／オフレコ」に託された意味とは何だろうか。

「消えた／消された記録・記憶」が今回のテーマです。オフレコ=Off the Recordには大きく分けて2種類あり、一つが人為的な力が加わってRecordという行為が止まること。マスコミで使われる「オフレコをお願いします」がこれにあたります。二つ目は記録、記憶自体を消してしまうこと。作家が消すこともあれば、別の力によって消されるときもあります。このように記録、記憶の消え方、消され方にはいろいろあり、そのテーマをもとに5人の作家を選びました」と神奈川県民ホールギャラリーの学芸員、中野仁詞は語る。いわば、「消えた／消された記録・記憶」を切り口に世界を見る試み、と言えらるだろうか…?

5人の作家が何をどのように「オフレコ」にするのか、過去の作品を紹介しながら見てみよう。

※写真(05ページに掲載)は今回展示される作品ではありません。

### 5人の作家、それぞれの「オフレコ」

**青田真也** (1982年生まれ 愛知県在住)は、さまざまな物

の表面を削って作品を作る作家。洗剤の容器などの日用品や、熊の置物(写真)、般若の面などすべて表面をツルツルにして、それぞれの表面に宿る情報をオフにしてしまう。今回はグランド・ピアノを削るという壮大なプロジェクト。11月から横浜市内・黄金町に滞在し、美術ワークショップのかたちで作品を制作する。オープンスタジオのように作業過程を公開し、ワークショップの参加者にも「削って」もらい、一緒に仕上げていくという。黄金町のスタジオを事前に訪れ、作品づくりに加わるのもいいだろう。(青田氏のコメントについては、05ページをご覧ください。)

**安藤由佳子** (1972年生まれ ドイツ、デュッセルドルフ在住)が日本でインスタレーションを制作・展示するのは今回が初めてとなる。安藤の「オフレコ」にはコンセプトual(概念的)な手法が用いられている。例えば《Big Story》(10年)では、実際の新聞を用い、このタイトルの2ワードを除いてすべて白クレヨンで塗りつぶす。また《notice1》(06年)は日めくりカレンダーを1枚ずつ床に落とすことで、1日に込められる記録をオフにする。今回はインスタレーションのほか、KAATのアトリウムで「Letter to KAAT」と題するプロジェクトも開催する。Letterの情報は開封しない限り永遠にオフ。開封される時、果たして何が起きるのか……。

**梶岡俊幸** (1978年生まれ 京都府在住)は“黒の作家”と言えるほど、その作品のほとんどが黒色。例えば《暗流》(05年)でも、和紙を貼ったキャンバスに墨と鉛筆で、夜の宇治川に映る光を描いた。墨で覆い尽くすことによって、自然のあり様の記録、記憶がオフにされている。

今回予定される新作は照明の演出を加え、床置きなどで展示される。

**佐藤雅晴** (1973年生まれ 茨城県在住)の作品はアニメーションによるインスタレーション。《バイバイカモン》(10年・写真)における着ぐるみによる“個性の消滅”、さまざまな電話が鳴り続ける《calling》(09年)における“発信・受信する人間の不在”など、佐藤の作品には随所に「オフレコ」が表現されている。今回は、中スタジオ外の通路で、東日本大震災で被災した蒲鉾工場の映像をプロジェクターで映すインスタレーションも展示される。伊達巻を作る過程を見せ、工場見学の模擬体験ができるという。

**八木良太** (1980年生まれ 京都府在住)は、サウンド、映像を巧みに駆使したインスタレーションで知られる。“氷のレコード”の愛称をもつ《vinyl》(05年・写真)は、まさに「オフレコ」のコンセプトを象徴するような作品。溶けてなくなるレコード(記録、記憶)は、消えてしまうのか、消されるのか。今回展示される作品での「オフレコ」が期待される。

### ホワイトキューブからブラックボックスへ

約400㎡のKAAT中スタジオで5人のグループ展をどう見せるか。「この機会に、KAATのブラックボックスの特性を生かした、ここでしかできない展示をしたい」と中野は語る。中スタジオをパーテーションで区切るのではなく、照明をあてることで一人ずつの空間を演出していく、という。

# KAAT神奈川芸術劇場〈中スタジオ〉で開催 神奈川県民ホールギャラリー 「日常／オフレコ」 Everyday Life / Off the Record

毎年秋に県民ホールギャラリーで開催してきた企画展が、今年度は県民ホールの改修工事による休館のため、県民ホールと一体運営されているKAAT神奈川芸術劇場の中スタジオで開催される。今回のテーマは「オフレコ」で、5人の若手アーティストによるグループ展。KAATを会場とした初の美術展となる。

### 神奈川県民ホールギャラリー 企画展

- 2007年 「塩田千春展 沈黙から」
- 2008年 「小金沢健人展 あれとこれのあいだ」
- 2009年 「日常／場違い」
- 2010年 「泉太郎展 こねる」
- 2011年 「日常／ワケあり」
- 2012年 「さわひらき展 Whirl」



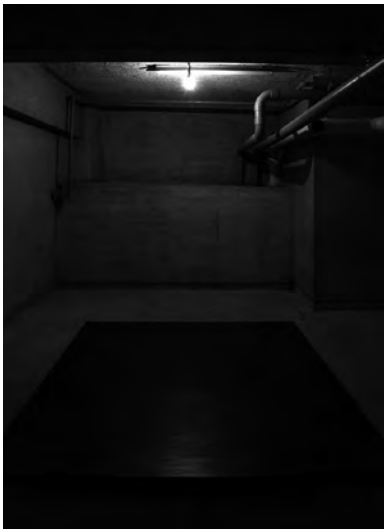
2007年「塩田千春展 沈黙から」 撮影：西村康



(untitled) (2008) 青田真也



(dialog) (2010) 安藤由佳子



《夜想》(2006) 梶岡俊幸



ひび ハイ カモン (2010) 佐藤雅晴



(vinyl) (2005) 八木良太

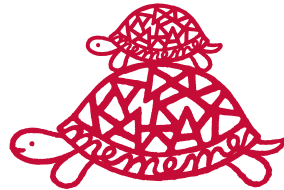
5人の作家を通して、見る我々自身がそれぞれ日常にひそむ「オフレコ」を探してみることもできるだろう。さまざまな楽しみ方ができそうな企画展に期待したい。

### 青田真也 新作を語る

横浜を訪れた青田真也氏に、新作についてうかがった。「県民ホールの企画展の特徴は、美術とパフォーマンスがコラボレーションして、展示会場が劇空間にもなること。そこが魅力だと思います。私もいろいろなジャンルの方とコラボレーションしたいと思っていましたので、今回の企画はとても楽しみです。」

普段演劇のために使われている空間での展示は私も初めてで、せっかくKAATでやるのですから、そこで開催することの意味がわかるような作品をお見せしたいですね。

今回、11月から企画展が始まる1月まで黄金町のスタジオに滞在します。たくさんの人を巻き込んで作品を作りたいと思っていましたので、美術ワークショップのかたちで作品制作をします。作家が作品を作っている現場を見たり、そこに参加したりする機会がめったにないことだと思います。ぜひみなさん一緒にピアノを削りましょう!



## 「日常／オフレコ」

Everyday Life / Off the Record  
(神奈川県民ホールギャラリー 2013年度企画展)

会期:2014年1月11日(土)~30日(木)

開場時間:10:00~18:00(入場は閉場の30分前まで)

会場:KAAT神奈川芸術劇場(中スタジオ)

入場料:一般600円 学生・65歳以上500円

高校生以下無料

※「アートコンプレックス」を展示会場で開催。  
詳細は特設ホームページから。

URL <http://www.offreco.info/>

【出品作家】

青田真也 安藤由佳子 梶岡俊幸  
佐藤雅晴 八木良太

主催:神奈川県民ホール

助成:公益財団法人花王芸術・科学財団  
芸術文化振興基金

協賛:EPSON販売株式会社 株式会社資生堂

協力:青山目黒 imura art gallery G/P+g<sup>3</sup>/gallery  
無人島プロダクション Masayoshi Suzuki Gallery  
認定特定非営利活動法人  
黄金町エリアマネージメントセンター



KAAT(中スタジオ)

## 神奈川 まちのプロデューサー ④

平塚市美術館 館長

草薙 奈津子氏

平塚市美術館はJR平塚駅から徒歩約20分。館長の草薙奈津子さんは、2004年の館長就任以来、入場者数を飛躍的に増やし、かつ質の高い企画展で注目を集めています。著書『美術館へ行こう』(岩波ジュニア新書)にも書かれたプロデュース術をうかがいました。

私が館長になった2004年当時、この美術館の入場者数は年間で3万人強でした。平塚市の人口は約26万人で、東京や横浜などの大都市と同じ条件で比較はできないものの、あまりにも少ない数字に何とかせねばと頭を悩ませました。

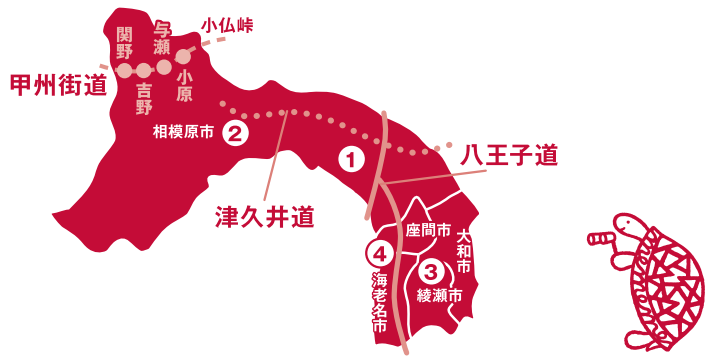
まずは前庭だけにでも入ってきてほしいと、ベンチや花のプランターを置いて明るく華やかな雰囲気にしました。次はロビーに人々を誘い、そしていよいよ展示室です。市民の方々に親しみを持ってもらえる企画、一般には知られていなくても美術館がぜひ紹介したいと思う作家や作品による企画、その両方を実現できるよう工夫しました。この施設には2つの展示室があり、同じ入場券で2つの展示室を見ただけのシステムにしていますので、お

目当ての企画展のついでに、それまで知らなかった作家の展示を見ていただく、ということができるのです。

芸術に何ができるのか? 美術館は人々の生活に必要なのか?—常に問われる問題です。たしかに芸術は、衣食住には直接関係ないかもしれませんが、けれども震災後、人々の心を慰め、勇気づけたのが音楽や美術であることが示すように、人間には必ず精神的に癒されるものが必要なのではないでしょうか。震災という悲惨な出来事によって、逆に美術館の存在価値を覚えてもらったような気がしています。

文化予算は削られることが多いですが、文化にお金を出すかどうかは、国や県、市の品格に関することだと思います。神奈川県民ホールギャラリーの企画展は現代美術を取り上げてよく頑張っていますね。

美術館は一人ではできない仕事で、管理スタッフと学芸スタッフが協力し合うことが大切です。双方をうまくマネジメントできる若い世代がどんどん育ってくれることを願っています。



## 街道でたどるエリア紹介

### 県央・相模原 [甲州街道・八王子道・津久井道編]



小原宿本陣全景 写真提供:相模原市教育委員会

第4回は、甲州街道・八王子道・津久井道が通る「県央・相模原エリア」です。内陸部であるこの地域には、東京湾・相模湾の海岸部と多摩西部随一の物資集散地である八王子を結ぶ、幾筋もの道が通っています。東海道のイメージが強い神奈川県ですが、北部の相模原市の津久井地域には、峻嶒な山並みを縫うように、同じく五街道の一つである甲州街道が通っています。江戸から八王子を経て、小仏峠を越え、小原・与瀬・吉野・関野という4つの宿場が置かれていました。いずれも東海道に比べると小さな規模の宿場ですが、小原宿には県域に唯一残る本陣(県重要文化財)が残されています。

監修:齊藤 司(横浜市歴史博物館)

#### ① 相模女子大学グリーンホール(相模原市文化会館)

2014年1月16日(木) 14:00 大ホール 午後のうおいコンサート  
江口有香×江口心×藤田 雅 ピアノ・トリオ コンサート ~三重奏 de 盛り沢山!~  
ヴァイオリン:江口有香(日本フィル ソロ・コンサートミストレス) チェロ:江口心  
ピアノ:藤田 雅 全席指定1,000円  
日本フィルハーモニー交響楽団 第2回相模原定期演奏会 2月28日(金)19:00 大ホール  
指揮:大友直人 ヴァイオリン:奥村 愛 S5,000円 A4,000円 お問い合わせ:☎042-742-9999

#### ② 社のホールはしもと

12月4日(水) 19:00 ホール 社のホールジャズセレクトシリーズ VOL.30  
渡辺香津美トリオ×中牟礼貞剛「master×master」 全席指定4,000円 ベア席7,000円  
12月8日(日) 15:00 ホール シリーズ社の響きvol.26  
アルティ弦楽四重奏団&ポール・メイエ(クラリネット)  
全席指定3,500円 学生(25歳以下)2,000円 ベア席6,000円  
お問い合わせ:☎042-742-9999 公開リハーサルあり(無料)。詳細は要問合せ。

#### ③ 綾瀬市文化会館

12月1日(日) 14:00 小ホール すてきなクラシック〜スクラッチ・トリオ  
瀬崎明日香(ヴァイオリン) 金子鈴太郎(チェロ) 菊地裕介(ピアノ)  
一般2,000円 小中学生500円(いずれも前売り券料金)  
12月22日(日) 13:00大ホール 親子で学ぶ!「世界一楽しい授業」  
歴史:金谷俊一郎 音楽:青島広志、小野勉  
一般1,000円、4歳~中学生500円 お問い合わせ:☎0467-77-1131

#### ④ 海老名市文化会館

12月1日(日) 14:00 えびかんクラシカルコンサート#15  
エリック・ハイドシェック ピアノ・リサイタル  
ヘンデルとJ.S.バッハによる5つのプレリュード、ハイドン:ピアノ・ソナタ第58番 S2,500円 A1,500円  
12月14日(土) 15:00 ミュージカル「おもひでぼろぼろ」  
出演者 たえ子:宮菜穂子(アトリエ・ダンカン) トシオ:鈴木裕樹 タエ子の母:ぼちゃ:飯島博子  
大人3,000円 高校生以下2,000円 お問い合わせ:☎046-232-3231

## その他の県内文化情報

### 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

会場:横浜みなとみらいホール  
名曲シリーズ ベートーヴェン「第九」 12月18日(水) 19:00開演  
指揮:金聖響 ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱付」  
S7,000円 A5,500円 B、P4,000円 学生(P)1,000円  
第295回定期演奏会 2014年1月25日(土) 14:00開演  
指揮:サッシャ・ゲツツェル ヴァイオリン:石田泰尚 チェロ:山本裕康  
ブラームス/ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 他  
S6,000円 A4,500円 B3,000円 学生席(B)1,000円  
お問い合わせ:神奈川フィル・チケットサービス  
☎045-226-5107(平日10:00~18:00)  
http://www.kanaphil.or.jp/

### 県立神奈川近代文学館

新収蔵資料展2013年/  
大佛次郎没後40年記念特設コーナー  
同時開催「文学の森へ 神奈川と作家たち」第2部  
芥川龍之介から中島敦まで  
神奈川とゆかりの深い作家・大佛次郎の没後40年を記念し、その幅広い創作活動の中から主に戦後の作品を中心に紹介します。  
11月30日(土)~2014年1月26日(日)  
※休館:月曜(12月23日と1月13日は開館)、年末年始(12月28日~1月4日)  
一般250円 20歳未満・学生150円  
65歳以上・高校生100円 中学生以下無料  
神奈川県横浜市中央区山手町110  
(みなとみらい線「元町・中華街駅」6番出口徒歩10分)  
☎045-622-6666 http://www.kanabun.or.jp/

### 神奈川県県民局くらし県民部文化課

カナガワ リ・古典 プロジェクト2014 紅葉ヶ丘  
神奈川県にゆかりのある古典・伝統文化の新しい魅力をお届けする3公演です。  
出演:竹本駒之助、藤原道山、林望、三浦しをん ほか  
2014年1月11日(土) 13:00開演 横浜能楽堂  
2014年1月11日(土) 16:30開演 県立音楽堂  
2014年1月12日(日) 13:00開演 県立青少年センター  
お問い合わせ:☎045-210-3808(文化課文化事業グループ)  
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f491016/  
文化芸術振興計画(改定素案)にご意見を  
募集期間は10月29日から11月28日までです。  
詳細は下記ホームページをご覧ください。  
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f491118/

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員 法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング / 株式会社浅岡装飾 / アサヒビール株式会社 / 株式会社アサヒファシリテイス / アズビル株式会社 / 学校法人岩崎学園 / 株式会社ヴォートル / 有限会社エス・イー・オー  
株式会社エス・シー・アライアンス / 株式会社NHKアート / 株式会社オーチャー / 株式会社勝烈庵 / 公益財団法人神奈川県結核予防会 / 神奈川県信用保証協会 / 神奈川県民共済生活協同組合 / 株式会社神奈川孔文社 / 株式会社神奈川保健事業社  
神谷コーポレーション株式会社 / カヤバ システム マシナリー株式会社 / 川本工業株式会社 / かをり商事株式会社 / 株式会社共栄社 / 株式会社キョウエイ装備 / 株式会社KSP / 株式会社合同通信 / コトブキシーティング株式会社 / 株式会社さが美  
株式会社ジェイムアンドカンパニー / 株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局 / 財団法人シルクセンター国際貿易観光会館 / 鈴鹿かまぼこ株式会社 / 生活協同組合バルシステム神奈川ゆめコープ / 生活協同組合ユーコープ / 生活クラブ生活協同組合  
株式会社清光社 / 株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ / 月島機械株式会社 / 株式会社テレビ神奈川 / 株式会社東急エージェンシー / 東工株式会社 / 東工芸株式会社 / ナイス株式会社 / 奈良建設株式会社 / 株式会社日建設計  
日産自動車株式会社 / 日産商工株式会社 / 株式会社野毛印刷社 / パナソニック ESエンジニアリング株式会社 / 株式会社日立システムズ / 平安堂薬局 / 株式会社ホテル、ニューグランド / 社団法人本牧関連産業振興協会 / 丸茂電機株式会社  
三沢電機株式会社 / 森平舞台機構株式会社 / ヤマハサウンドシステム株式会社 / 株式会社有隣堂 / 株式会社豊商 / 株式会社ユニコーン / 株式会社横浜アーティスト / 横浜エレベーター株式会社 / 横浜新都市センター株式会社 / 横浜信用金庫  
株式会社横浜ステーションビル / 横浜ビルシステム株式会社 永年個人賛助会員 江田眞子 / 川村恒明 個人賛助会員 大島正博 / 金子祐子 / 黒瀬博晴 / 本田正男 / 三角京子 / 三角秀行  
協賛・協力 能舞台協賛 ナイス株式会社 音楽堂施設協賛 コトブキシーティング株式会社 協力 神奈川総合設備株式会社 / 神奈川トヨタ自動車株式会社 / 崎陽軒 / 鈴鹿かまぼこ株式会社 / 株式会社東芝 首都圏南支社 / 株式会社野毛印刷社  
野村證券株式会社横浜支店 / 三菱地所株式会社 (匿名:1社、1名) (敬称略 2013年10月9日現在)

賛助会員募集のご案内 公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員の制度を設立し、広くみなさまのお力添えをいただいております。お問い合わせ:公益財団法人神奈川芸術文化財団 広報営業課 ☎045-633-3760



夏休みのKAAT神奈川芸術劇場と神奈川県立音楽堂で、子どもおとなも大満足の公演が行われました。KAATアトリウムにテント仕立ての芝居小屋が出現した「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」と、4日間にわたってオーケストラを丸ごと体験できる「マエストロ聖響の夏休みオーケストラ!」。元気な子どもたちの感想をご紹介します。

**親子のためのファミリー・ミュージカル**  
**「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」**  
 原作:カルロ・コローディ 作曲・音楽監督:深沢桂子 演出・脚色:宮本亜門  
 8月23日(金)～9月1日(日) KAATアトリウム特設ステージ

**マエストロ聖響の夏休みオーケストラ!**  
 指揮:金聖響 ピアノ:外山啓介  
 管弦楽:神奈川フィルハーモニー管弦楽団  
 8月17日(土)音楽堂(関連企画は14日(水)～16日(金)に開催)



ピノキオ(小此木麻里)



終演後のお見送り

ようふくがかわいかった。ピノキオの話とちがったけれど、  
 こっちのほうがおもしろかった。また見たいです。(小学生女子)

おもしろかった。とくに、絵なのに  
 モナリザがはしるところ。(小学生男子)

おもしろかった。(小学生女子)



しらゆきひめ(6歳女子)



「舞台上で聴いてみよう」コーナー



オーケストラの楽器鑑入  
 ～ジュニアスタッフ奮闘中

(コンサートマスターの)石田さんが小さなバイオリンを弾いて  
 おもしろかった。(小2女子、小2男子)

「舞台上で聴いてみよう」のコーナーがおもしろかった。  
 音が大きくてびっくりした。床が震えていてとても  
 頑張っているんだと思いました。(小2女子、小3男子、小4女子)

楽器体験コーナーでヴァイオリンを弾いてみて、プロの人の演奏は  
 本当にすごいと思いました。(中1女子)

コントラバスがすごい高い音がでるのを知って、驚いた。(小5女子)

## もっと、もっとアート。

### 音楽堂建築見学会vol.5

まもなく60周年、前川國男の名建築と出会う人気企画。  
 ミニコンサートで音響も体感!

12月5日(木)  
 神奈川県立音楽堂  
 全席指定 1,500円(定員400名)  
 レクチャーと対談:  
 藤森照信(建築史家)、  
 松隈洋(建築史家)  
 音響体感ミニコンサート:  
 吉野直子(ハーブ)  
 ※館内見学可



藤森照信

### ミュージカル「スクルージ」 ～クリスマス・キャロル～

いくつになっても奇跡は起こる。  
 人生を変えるクリスマス・プレゼント!

12月25日(水)  
 KAAT神奈川芸術劇場・ホール  
 全席指定  
 SS12,600円 Sおとな9,800円  
 S子ども(3～12歳)6,800円  
 A3,150円  
 出演:市村正親、武田真治、笹本玲奈、  
 田代万里生、今陽子、今井清隆 他



### フローズン・ビーチ

2014年1月23日(木)～26日(日)  
 KAAT神奈川芸術劇場・  
 大スタジオ  
 全席指定 6,000円  
 作:ケラリーノ・サンドロヴィッチ  
 演出:高羽彰  
 出演:石田えり、松田美由紀、  
 渡辺真起子、山口美也子



チケットのお求めは

インターネットチケット予約(24時間受付)  
<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

チケットかながわ 0570-015-415(電話10:00～18:00)  
 (芸術劇場窓口10:00～18:00 / 音楽堂窓口13:00～17:00月休)

### 編集後記

- 県民ホールとKAATの間の区画に飲食店がいくつかあるのですが、どこもおいしいのでランチは満席。たまに夜に行くと、いつもの昼とは違ったお店の顔を見られるのも楽しい。(k)
- 初めてオペラを観たのが県民ホール。以来たくさんのオペラ、バレエやコンサートをここで体験しました。これからもたくさんの人に夢を贈り続ける劇場でいてほしいです。(あ)
- 新年は音楽堂のニューイヤー・コンサート「日本の音でお正月! 京の和み・江戸の粋」で、スタート! 日本の「伝統音楽」と狂言の「笑」を感じて一年の福を呼び込みたいと思います!(ゆ)

神奈川県立県民ホール(本館、神奈川芸術劇場)及び神奈川県立音楽堂の主催事業には宝くじの収益金の一部が使われています。



神奈川トヨタは、  
 地域社会に貢献する活動の  
 一環として「かながわ水源の森林づくり」に  
 企業参加しています。

神奈川トヨタは、水源かん養機能の高い森林づくりを目指して神奈川県が進める「かながわ水源の森林づくり」事業に、民間パートナー企業として参加協力しています。プリウスの販売台数に応じた寄付に加えて、プリウスのオーナーの皆様と一緒に、森林にふれるための「プリウス森木(しんぼく)会」を発足。神奈川県西部に「プリウス森木会の森」を設け、植樹や自然観察会などを行っています。



PRIUS PHV

神奈川トヨタ お客様相談センター  
 ☎ 0120-212119  
<http://www.kanagawatoyota.com>



**KAAT神奈川芸術劇場** ☎0570-015-415(チケットかながわ) <http://www.kaat.jp/>

**Noism1『PLAY 2 PLAY—干渉する次元』(改訂版再演)**  
2014年1月24日(金)~25日(土)  
Noism芸術監督・金森穰が2年半ぶりに出演。舞踊芸術、建築、音楽、ファッション。究極のコラボレーションが、新たなメンバーでの創作を経て、改訂再演されます。

演出振付:金森穰 空間:田根剛(DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS)  
音楽:トン・タツ・アン 衣裳:三原康裕、堂本教子 出演:Noism1+金森穰

Noism07/PLAY 2 PLAY—干渉する次元(2007)  
演出振付:金森穰 撮影:渡山紀雄

**ブリリア ショートショート シアター**

☎045-633-2151 <http://www.brillia-sst.jp/>

日本初のショートフィルム専門の映画館として、2008年横浜・みなとみらいに誕生。県民ホール「ファンタスティック・ガラコンサート2013」に司会出演される別所哲也さんが代表を務められています。世界中から集まった選りすぐりの作品を1プログラム60分の中で4~6本上映。12月はクリスマスにちなんだプログラムが上映されます。

営業時間:10:00~22:00  
定休日:火曜日※イベント時を除く  
料金:一般・学生1,000円、シニア800円



**横浜港 新年を迎える船の汽笛** ☎045-641-4362(氷川丸) <http://www.nyk.com/rekishi/>



汽笛をBGMに、横浜港で大晦日のカウントダウンを過ごされるのはいかがでしょうか?  
横浜港では、新年を迎える瞬間、港に停泊する船が一齐に汽笛を鳴らします。その響きは「日本の音風景100選」にも選ばれました。  
氷川丸では、定期的に「氷川丸船上オープンデッキ開放」を開催。12月はクリスマスコンサート、1月はもちつきのイベントが予定されています。  
開館時間:10:00~17:00(入館は16:30まで)  
休館:月曜日(祝日の場合は翌平日)  
入館料:一般200円、シニア(65歳以上)、小中高生100円



(横浜市在住カメラマン) 森日出夫さんの写真でめぐる「私だけが知ってる横浜」。

**横浜情景**

汽車道は、鉄道廃線跡を利用して作られた、桜木町駅と新港地区を結ぶ遊歩道です。かつて貨物輸送に使われていた臨港線の一部の区間を整備したもので、汽車道の路面に、そのレール跡を見ることができます。1989年の横浜博覧会ではこの線路を利用して列車運行が復活しました。汽車道に架かる3つの橋は、いずれも横浜市認定歴史建造物に認定されています。ここからはみなとみらいの高層建築を見渡すことができ、夜景も美しいですね。横浜の歴史と今が味わえる絶好の散歩スポットだと思います。



MAGCUL.NET 神奈川県発、文化発信ポータルサイト、マガカルドット ネット

**KAME** KANAGAWA members 登録無料!メルマガ定期配信

県内のアート情報はここで探そう!  
<http://www.kanagawa-at.info/>  
「かな@」で県内のアート情報を検索できます。

うまし、あたたし、おもしろし

**鈴廣 かまぼこの里**

かまぼこや干物、スイーツなどの鈴なり市場や海山の幸が美味しいレストラン、かまぼこ博物館など買・食・遊を楽しむ「かまぼこの里」へ。

**買** 鈴なり市場 **遊** かまぼこ博物館 **食** えれんな ごっそ/ちようわらう 千世倭楼 そば美蔵

◆アクセス 箱根登山鉄道 風祭駅すぐ 駐車場完備 神奈川県小田原市風祭245 ◆電話 0465-24-3141(代) [www.kamaboko.com](http://www.kamaboko.com) すずひろ 検索

Vol.115(連載119号)2013年11月15日発行(発行人:15日発行) TEL045-633-3760 FAX045-633-3714 発行:神奈川県民ホール(指定管理者:公財)神奈川県文化財団(株)ニュー・ミュージックコミュニケーションズ(株)ニュー・ミュージックコミュニケーションズ